

△靈雲院〔特芳禪傑開基。当菴襖の画みな古法眼の筆なり、今取て軸物とす。庭は相国寺の是庵の作とぞ。伝に云、靈雲院は曾て後奈良院臨幸の所なり、故に大休和尚退隱の後、其戸を閉て猥に人の出入を許さず、此事五六十年の間なり。此時古法眼の画多く人の為に偷取らる、残画は今軸の物とす。又云、天和三年靈元帝古法眼の画并に聞偃溪の賛李龍眠の三幅対叡覽あり。庭中の山水は子建これを作る、書院は匠人龍安といふ者これを作る、山崎妙喜庵も亦此書院を写して建る、其後金森宗和此書院を模して加州の太守に奉ず、故に今に於て靈雲院と同形と。云々〕